

どうきっかさんそうちょうきょう
銅菊花散双鳥鏡

- ◇ 指定日 平成元年12月12日
- ◇ 所在地 川井
- ◇ 所有者 個人

銅菊花散双鳥鏡は直径112mm、重さ145gの銅鏡です。銅鏡は祭祀や婚礼の際に使用されたとされ、片面を磨いて鏡とし、もう片面は装飾が施されています。

装飾されている面は外側から連珠文、鋸齒文^{きょしもん}、連珠文の順に施文されており、その内側の全体に菊花が施されています。菊花の様子は全部で17あり、うち1つは半分で切れてしまっています。

上部には一対の雀が描かれており、中央には紐を通すために菊の花に見立てた菊座があります。

市内から見つかっている銅鏡は4点あり、中央の紐を通すための部分が亀を模している亀鈕の銅鏡が3点で、菊座を用いているのはこの銅鏡だけです。14世紀中頃～後半のものと考えられます。

